

2020年度岩手大学環境目的、目標及び活動計画

IE1-5-1
最終改定日
2020.3.26

2020年度						
環境方針等	EA21 要求事項	環境目的	環境目標	活動計画	行動の責任 部署	監視測定 責任部署
I.キャンパス環境の改善		サステナブルキャンパスの構築を図る。	エコアクション21による継続的なキャンパス環境の改善	1. エコアクション21の継続審査を受審する。	EMS推進室 (WG・全ユニット・EMSC)	EMS推進室
				2. ASSCが実施するサステナビリティ評価システムへの参加を検討する。	EMS事務局・全ユニット	
				3. オオハンゴンソウの防除を進める。	対象部局ユニット	
II エネルギーの使用	二酸化炭素排出量の削減 (省エネルギー)	エネルギー使用及びCO2排出量の削減を図る。	エネルギー使用及びCO2排出量を前年度比1%の削減を図る。	1. 教室・事務室等の照明は昼休み、残業時等 unnecessaryなものを消灯する。(窓口業務を除く)	全ユニット	EMS推進室
				2. 時間外勤務の照明は、業務上最小限の範囲で点灯することとし、それ以外は消灯する。		
				3. 空調機の運転時間及び室温設定の最適化を図る。		
				4. エレベーターの使用を控え、階段利用の促進を行う。		
				5. エネルギー使用量及びCO2排出量について教授会等で報告を行う。	施設課 EMS推進室	
				6. 照明器具・空調機・空調換気扇のフィルターについては、定期的に清掃・交換する等、適正に管理する。		
				7. 電力管理システムを再構築し建物別電力使用量の見える化を進める。	施設課	
				8. LED照明化を進める。	施設課	
III, 資源の使用	用紙使用の削減	資源使用の削減を図る。	用紙類の使用を前年度比1%以上、削減する。	1. EMS事務局がユニット別にコピー用紙の購入量を算出し、前年度と比較する。	EMS事務局	EMS推進室
				2. ICT機器等の利用により会議のペーパーレス化を積極的に実施する。	全ユニット	
				3. 教授会・各種会議の資料をガールーン上に掲載する。	全ユニット	
				4. リース複合機の使用状況を確認し、前年度と比較する。	全ユニット	
III, 資源の使用	総排水量削減 (節水)	資源使用の削減を図る。	水道使用量を前年度使用量の維持を図る。	1. 毎月の水道使用量をユニット別に算出し、前年度と比較し、推進室会議時にユニットに通知する。	環境影響評価WG	EMS推進室
	化学物質使用量削減			化学薬品の購入量を抑制する。	安全衛生管理室	
IV, グリーン購入	グリーン購入	岩手大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。	環境配慮型製品を優先的に購入する。	1. 年2回、岩手大学における「環境物品等の調達の推進を図るための方針」に基づき製品の購入を行うよう周知する。	全ユニット	EMS推進室
V, 廃棄物等の排出	廃棄物排出量の削減 (リサイクルの推進)	廃棄物排出量の削減を図る。	プラスチックごみの削減を図る。	1. ゴミ分別についての周知・分別調査を継続し、結果を推進室会議で報告する。	EMS事務局・部局ユニット・EMS学生委員会	EMS推進室
				2. 産業廃棄物のうち、小型家電のリサイクルを率先する。	EMS事務局	
				3. リサイクル可能なプラスチックごみの検討を行う。	EMS事務局・部局ユニット・EMS学生委員会	
				4. ゴミ分別を徹底するよう周知する。(ペットボトルの蓋とラベルの分別の徹底、水銀含有物を含んでいないかのチェックの徹底)	全ユニット	
				5. 不要な物品・什器類・備品の学内リユースに努め長期使用を進める。	全ユニット	
				6. 再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入し、使用する。	全ユニット	
		大学における環境教育・環境人材育成を推進する。	環境教育・研修の推進を図り、全学で「持続可能な共生社会に寄与する環境人材育成」を進める。	1. 実験廃液を排出する研究室の学生を対象に、正しい廃液の区分と運搬に関する教育を実施する。	安全衛生管理室	EMS推進室
				2. 環境に大きな影響を与える項目や原因について構成員が自覚するための環境教育計画・活動を検討する。	環境教育WG	EMS推進室
				3. 前年度に引き続き環境マネジメント学生委員会を対象に「環境方針」「環境目的・目標及び環境活動実施計画」についてのアンケートを実施し、比較する。	EMS事務局	EMS推進室

VI, 環境教育 環境人材教育	環境に関する教育 (環境人材の育成)	附属学校における環境学習の充実・発展を図る。	附属幼稚園では、花や野菜の栽培等を通して、植物が育つ環境について関心をもつ活動を行う。	1. 花の栽培や野菜作りでの水やりや草取りなどの世話をす。それらを通して、自然の美しさ、豊かさ、不思議さなどに気づいたり、生長する様子に関心をもったり、収穫の喜びを味わったりする。	附属幼稚園	当該ユニット責任者
			附属小学校では、「総合的な学習の時間」等を活用し、自然観察や地球温暖化の学習など環境について学ぶ場を創る。また、委員会やたてわり活動を通して、環境に配慮した活動を行う。	1. 総合的な学習の時間に3年「わたしたちの中津川」の単元で、中津川と自分たちの生活とのかかわりについて学ぶ。中津川の自然を観察したり、水質調査や街路樹調べを行ったりしながら、環境問題について考える学習を行う。	附属小学校	当該ユニット責任者
				2. ボランティア委員会等の活動として、学校周辺や加賀野地下道のゴミ拾い、冬季の除雪作業などを行う。		
				3. 2年生「小さな旅」、5年生「林間学校」の学習の中で、自然環境の大切さや、よりよい環境を維持するための取組を知る。6年生理科「私の環境宣言」では、これまでの学びを生かして「環境に及ぼす影響を少なくする取り組み」「環境を守るための取り組み」「地球の活動によって受ける影響を少なくする取り組み」の3点について、新聞にまとめる学習を行う。		
	4. 気象システムを活用し、理科の学習を通して環境について学習する。					
VI, 環境教育 環境人材教育	環境に関する教育 (環境人材の育成)	附属学校における環境学習の充実・発展を図る。	附属中学校では、環境を守りはくくむ心と感受性を育て、環境美化活動、エネルギーの節約等に配慮した生活・行動を実践できるよう指導する。	1. 授業において環境教育を取り入れる。道徳や理科を中心に学び、心を育てる。	附属中学校	当該ユニット責任者
				2. 日常での清掃活動の見直し、及び節電・節水を推進する。		
				3. 生徒会活動による校地及びその周辺の清掃・環境美化活動。		
				4. ボランティア委員会による附属幼稚園等の清掃・環境美化活動。		
VI, 環境教育 環境人材教育	環境に関する教育 (環境人材の育成)	学生の自主的な環境保全活動を推進する。	附属特別支援学校では、作業学習等で使用する原材料のリサイクル化を推し進めるとともに、委員会活動や生徒会活動における資源回収を通して環境活動を実施する。	1. 廃油を活用した「リサイクル石けん」や地域のりんご園等から提供された材料を使った「クラフト製品」は、中学部の作業学習で取り組む。	附属特別支援学校	当該ユニット責任者
				2. 空き缶、古新聞等の「資源回収」は全校に呼びかけ、中学部の委員会活動で取り組む。		
				3. 高等部エコ委員会の活動で、ペットボトルキャップ回収の呼び掛け、回収、洗浄を行う。		
VII 環境関連研究	研究及び地域や社会への還元	大学・大学院における環境関連研究を推進する。	各学部・研究科の特色を活かした環境関連研究を推進する。	1. これまでの活動にSDGsの要素を盛り込み、より一層の環境活動を進める。	EMS学生委員会	EMS推進室
				2. ステークホルダーを対象とした地域連携イベントを開催する。		
VIII 環境関連研究	研究及び地域や社会への還元	大学・大学院における環境関連研究を推進する。	各学部・研究科の特色を活かした環境関連研究を推進する。	1. 高齢被災者による太陽光パネル市民共同発電所の設置・運営と中小企業(団体)のエネルギーソフト・ウェンテ運動に基づく持続可能な地域社会の形成要件・メカニズムを検討する。	人文社会科学部	EMS推進室
				2. 学部・研究科における環境関連研究を推進する。	教育学部	
				3. ソフトパス理工学総合研究センター及び学部・研究科における環境関連研究を推進する。	理工学部	
				4. 農学部における環境関連研究を推進する。	農学部	
VIII 構内事業者の取組	構内事業者の環境配慮活動の推進を図る。	放送大学岩手学習センターにおいて環境に配慮した取組を実施する。	放送大学岩手学習センターにおいて環境に配慮した取組を実施する。	1. 放送大学学生に環境保全活動の啓発を推進する。	放送大学岩手学習センター	当該ユニット責任者
				1. 食堂の食品残渣2019年度比1%削減する。	岩手大学生協	当該ユニット責任者
				2. 購買店舗の食品(パン、おにぎり、弁当)の残渣を2019年度比1%削減する。		
			プラスチックごみの削減に努める。	1. 弁当・リパック容器の回収率を2019年度比3%向上させる。		
IX, 地域社会に対する取組	社会貢献	三陸沿岸地域の環境産業の振興を図る。	持続可能な漁業に向けた取組を行う。	1. 三陸における貝類養殖に深刻な影響を及ぼす外来種ヨーロッパザラボヤに関する基礎生物学的研究を行う。	釜石キャンパス	EMS推進室
X. 法規制順守		環境に関わる法規制を遵守する。	自主運営に向けた環境関連法規制遵守評価方法を検討する。	1. 法規制評価WGで、これまでの遵守評価状況を確認しつつ、自主運営に向けた環境関連法規制遵守評価方法を検討する。	法規制WG	EMS推進室